

やまなし

## 医療最前線

県立中央病院から

《 139 》

低出生体重児や先天的な病気のある赤ちゃんの診療に当たる新生児集中治療室（NICU）は山梨県内に5カ所がある。年間150～200人が入院し巣立っていく県立中央病院では、退院後の保護者の育児不安を軽減しようと、10月から、保護者が子どもの行動への対応を学ぶ「ペアレント・トレーニング」を始めた。長期的に成長を見守る「フォローアップ外来」とともに、NICU退院後のサポートに力を入れている。

新生児科部長の小林真美医師によると、NICUを退院した子どもは発達の遅れや障害がみられることがあり、子育てや親子関係を悩む保護者も少なくないという。



小林 真美  
新生児科部長

## 保護者の育児不安を軽減

ペアレント・トレーニングは親が子どもの行動に注目し、適切な対応を学ぶことで親子ともにより良い家庭生活を送れるようになることが目的。2週間に1回のペースで全10回を予定している。

小林医師は「子育てのストレスを減らし、親子関係を見直す機会にしてほしい」と期待。同じ悩みを持つ保護者と交流する機会も提供したいという。

一方、同病院は2003年の総合周産期母子医療センター開設時から、NICUを退院した子どものフォローアップ外来を週2日行っている。

月1回から半年に1回、子どもの成長を診ながら必要に応じて発達・知能検査を臨床心理士が実施。新生児科医師や小児神経の専門医、臨床心理士、保育士がリハビリや支援の必要性を検討し、保護者とともに考えていく。

「NICUを退院したら終わりではなく、長期的に子どもたちの成長を見守っていきたい」と小林医師。必要があれば中学生以降も外来で診ていく。小林医師も子育てをしながら短時間勤務で働くママ。「同じ母親として、お母さんたちの産後の不安を少しでも和らげたい」と話している。

Ⅱ第2、4木曜日に掲載します



NICU退院後の子どもの成長を見守る「フォローアップ外来」

Ⅱ甲府・県立中央病院